



発行元: iP-U事務局 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学 TEL028-649-5411 URL <http://c-bio.mine.utsunomiya-u.ac.jp/iP-U/>

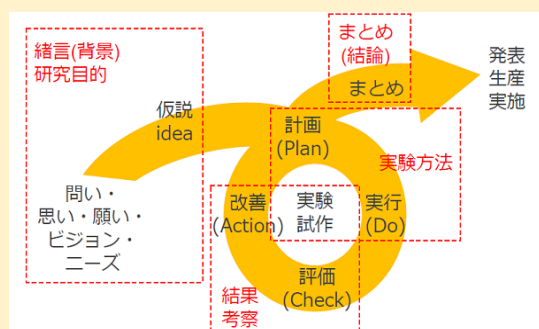
iP-Uでプレゼンテーションを学ぶ

iP-Uでは、多くの授業でポスターやスライドを作成しプレゼンする機会を設けています。特に、連続講座「プレゼン力養成講座」(デザイン力実践講座と共催)では、自分の研究を磨き上げ、繰り返しプレゼンすることでその基礎を身につけました。

自分の研究成果を100%伝えるためには、研究を貫くロジック(論理)を明確にすることが最も重要です。プレゼンする上で基本になるロジックは、次の3つです。

基本になる3つのロジック

- ① ストーリーのロジック
デザイン・プロセスに一致する【右図】
- ② レイアウトのロジック
読みやすさへの気配り
見出し・インデント・字の大きさ・色・視認性・シンプルさ
- ③ 文章のロジック
作文の技術(簡潔、主部と述部、修飾関係)
自分の考えと他人の考えの整理、1分間で伝えられる言葉の量など



デザイン・プロセスの図

自分の研究を、聴衆に興味を持って聞いてもらうためにも、しっかりプレゼンの準備をします。きちんとした原稿を作り、それをぜんぶ覚え、徹底的に練習することです。(アドリブは不可です。準備がすべて!)

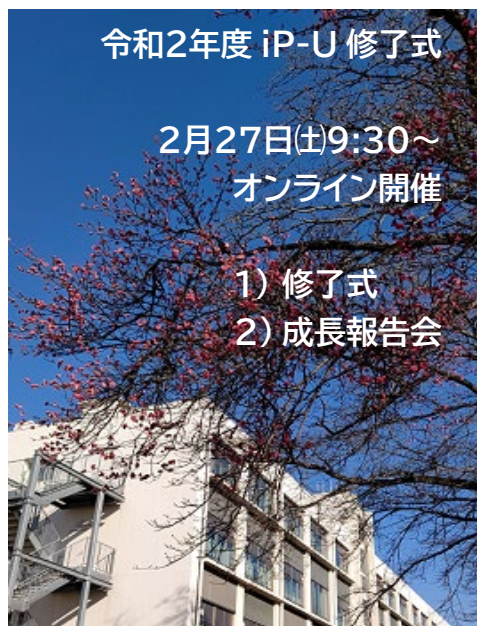
こうすることで、緊張せずゆっくり話すことができ、聴衆に伝わっているか確認しながら話す余裕が生まれます。大切なことは「自分の伝えたいことが、聴衆に興味をもって聞いてもらえているか」を意識することです。

プレゼン力は、研究成果を発表するときだけに使うものではありません。みなさんがこれからデザイン(iP-Uの指すデザイン)していくモノゴト(製品、計画、政策など)を実現させていくために重要な力なのです。

令和2年度 iP-U 修了式

2月27日(土)9:30~
オンライン開催

- 1) 修了式
- 2) 成長報告会



プレゼンカ養成講座のリフレクションシートから

前回の講座で、研究をまとめるだけでなく、それを他の人に説明していくことが大切だとわかった。自分の中では論理的に組み立てられていても、説明するとなると頭がこんがらがることがあったからだ。今回は、要点を押さえて話そうと意識できた。

これまで、研究発表の原稿は、文系の作文との違いを強く意識せずに書いていた。しかし、授業を通して、事実と意見を明確に分け相手に理解されやすい文章でなければならないことが分かり、高校での国語の授業の重要性を実感した。

また、他の受講生のプレゼンを聞いて、自分より細かく実験内容を記載している人やイラストを用いて説明している人がいた。自分の研究を伝えるため、さらにプレゼンを改善したいと思った。

話す速さは、パワーポイント1枚につき1分、限られた時間で自分が伝えたいことを正確に伝えることの難しさを知った。また、他の受講生の考え方やまとめ方はとても参考になったので、自分も良いものを積極的に取り入れていきたいと思う。

研究・実験方法の組み立て方やスライドの書き方を、他の受講生のスライドや先生方のお話からたくさん学ぶことができ、本当に楽しかった。研究のやり方が少しですが身に付いた気がする。論文を書くことはもちろんだが発表の準備には沢山の時間と能力が必要だと感じた。

どのようなスライドが聴衆に届きやすいのかが、自分がこれからパワーポイントを使ってプレゼンしていく上で重要だと思うので、沢山経験を積んで学んでいきたい。そのために、練習をきちんとし、完璧な状態で、時間内に収められるようにするコツをつかみたい。

他の受講生のプレゼンを聞いて、クオリティの高さに驚いた。図表などが多用されていたり、実際に行った実験結果が使用されていたりするなど、自分の発表に活かしたいと思うことがたくさんあった。また、協働板を使って互いに意見を積極的に発信していてすごいなと思った。自分も、積極的にディスカッションできるようになりたい。

編集後記



TVのニュース番組はプレゼン技術の宝庫です。特に天気予報とか、フィリップを使った解説では、どこを指して説明しているのか、どんな図を使っているのか、どれ位のスピードで話しているかなど、とても勉強になります。

先日、あるニュースを見ていたら、東京の感染者数が少し減ってきていたとき「減っている」とは言わずに「依然として1,000人以上」と言っていました。

それはなぜだと思いますか？（大）